

■ サステイナブル(持続可能)な具体策を提言。震災廃棄物と復興の深い関係性とは ■

関西大学 公開シンポジウムを開催

「われわれは巨大地震にどう備えどう向き合うべきか」

【日 時】1月26日(金)13:00 ~ 16:00 【場 所】梅田キャンパス8階 KANDAI Me RISE ホール

このたび関西大学では、南海トラフ地震といった自然災害への対応策を議論する公開シンポジウム「われわれは巨大地震にどう備えどう向き合うべきか」を、1月26日(金)13:00より、梅田キャンパスにて開催します。

**本件の
ポイント**

- ・南海トラフ地震等の巨大災害に対するサステイナブル(持続可能)な適応策を提言
- ・独立行政法人 環境再生保全機構・環境研究総合推進費採択事業(3年間)の最終成果を報告
- ・いち早い復興のキーとされる「震災廃棄物の処理」を軸とした議論を展開

本シンポジウムは、独立行政法人 環境再生保全機構・環境研究総合推進費に採択された本学の研究グループ(研究代表者:環境都市工学部・北詰恵一教授)が、「巨大地震による震災廃棄物に関わる社会リスクをふまえたサステイナブルな適応策評価」を研究課題として取り組んだ3年間(2015~17年度)の成果を発表するものです。

阪神・淡路大震災や東日本大震災を経験した我が国は、近い将来に高い確率で発生するとされる南海トラフ地震等の巨大災害に対して、万全な体制を整える必要性が問われています。本シンポジウムでは、南海トラフ地震に向けた分析・対応事例も紹介しながら、自然災害というリスクに対する実効性のある方策を提言します。とりわけ「震災廃棄物の処理」に焦点をあて、被災量の評価、処理場や輸送、リサイクルも含めた総合的な計画論の立場から、今後の巨大地震に対するサステイナブル(持続可能)な適応策について議論・検討します。

つきましてはご多忙の折恐縮ですが、本シンポジウムに関しまして、取材のご検討をお願い申し上げます。

■ 震災廃棄物とは

コンクリート瓦礫や津波堆積土、がれき焼却灰、ふるい下残渣、金属くずなど。大量の災害廃棄物の処理には多大な費用が必要で、被災した自治体だけで処理することは難しいとされる。震災廃棄物の適切な処理は、震災直後の円滑な応急体制を整備する上で必要性が高く、安定した生活へのいち早い復興のためにも重要となる。

記

【日 時】 1月26日(金) 13:00 ~ 16:00

【場 所】 梅田キャンパス8階 KANDAI Me RISE ホール

大阪市北区鶴野町1-5(阪急梅田駅から徒歩約5分、JR大阪駅から徒歩約10分)

【概 要】

- ・開会挨拶 石井 克明氏(一般社団法人 国際環境研究協会・環境研究総合推進費プログラムオフィサー)
- ・報告1 サブテーマごとの報告:
 - ST1「震災・社会リスクをふまえたレジリエント政策の評価」
 - ST2「震災被害想定に応じた震災廃棄物量のコンティンジェント推定の評価」
 - ST3「震災廃棄物と再資源化物の輸送にかかる脆弱性と輸送効果の評価」
 - ST4「社会リスク評価を介した震災廃棄物の処理・リサイクル拠点の適地評価」
 - ST5「震災廃棄物の環境上適正な資源化技術の開発と評価」
- ・報告2 北詰 恵一(研究代表者・関西大学環境都市工学部教授)
 - :「巨大地震による震災廃棄物に関わる社会リスクをふまえたサステイナブルな適応策評価」
- ・閉会挨拶 吉田 宗弘(関西大学研究推進部部長・化学生命工学部教授)

【対象・定員】 各自治体防災担当の方をはじめ、どなたでも可。100名。

以 上

※当日の取材をご希望の方は、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当:石田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp